

「方言は恥じることないすばらしい文化だし、写真と一緒に三本木の魅力を伝えたい。このような活動を通して、今までお世話になった人たちに少しでも役に立てたらうれしいですね」と語ってくれた花海さん。花海さんの「三本木愛」は、多くの人の心に届くことだろう。

「方言は恥じることないすばらしい文化だし、写真と一緒に三本木の魅力を伝えたい。このような活動を通して、今までお世話になった人たちに少しでも役に立てたらうれしいですね」と語ってくれた花海さん。花海さんの「三本木愛」は、多くの人の心に届くことだろう。

「方言は平仮名だけでなく漢字でも書けるんです」と話す花海さんは、三本木で月に三回開催されるお年寄りの皆さんの集まりで、「漢字で書ける方言講座」も開催しています。

また、花海さんは写真愛好家でもあり、三本木の美しい風景などの写真を三本木郵便局や特別養護老人ホーム「百才館」などに展示し、愛する地元の美しい場所などを写真で紹介しています。

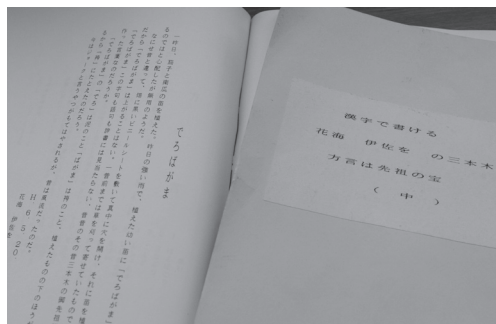
過去にはその集大成として、「花海伊佐を」のペンネームで「花海伊佐を」の三本木弁をまとめた。ひさ小僧を意味する「ひじやかぶ」、腕を意味する「きやな」など、家族とのやり取りや日常の出来事を織り交ぜながら、親しみやすい文章で分かりやすく解説しています。

「二 三 本 木 地 域 に 伝 わ る 方 言 を 楽 し く 教 え て く れ る 花 海 功 さ ん は 、 地 元 三 本 木 を 愛 す る 郷 土 研 究 家 で す 。



郷土研究家
花海 功さん（三本木地域）

郷土愛と
地域の文化を
後世に伝えたい



▲ユニークな文章で親しみやすい「花海伊佐をの三本木弁」は、三本木学習センターで読むことができます。

◆三本木学習センター

住 所 三本木字北町 13-4

休館日 月曜日および祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

このコーナーでは、「大崎ライフ」をより楽しむための物や技、場所などを毎月紹介していきます。



松山地域発

歴史の息吹を伝える
豪商建築の意匠 松山座敷蔵

仙 台藩の重臣茂庭家の城下町として栄えた松山地域。かつて居城のおかれた千石地区は、今も土蔵造りの商家が立ち並び、現在もその面影を伝えています。

その中に、飾り棟に龍を、一階軒先に唐獅子を施した、ひときわ目を引く重厚な土蔵造りの建物があります。「松山座敷蔵」です。

代々町の肝入役を務めていた角田家が、醤油醸造業の店舗として明治二十年に建築したもので、平成十四年、松山町が角田家十六代当主脩一氏より寄附を受けました。現在は街並みの保存と城下町松山の歴史文化の継承のために活用しています。

昔、火災の危険のある街中の商家では、絶対安全な座敷として蔵の中に座敷を作りました。商業・農業用の蔵と違い、街中心部に作られた蔵は、ステータスシンボルとして作られたとも言われています。

「松山座敷蔵」はその外観もさることながら、内装には、太さ五十センチ



▲①通りの中でもひときわ目を引く座敷蔵の外観。②「座敷蔵」をはじめ松山の歴史や文化について案内してくれる「まつやま訪ね歩き」の会。この日の案内は優しい笑顔の菅原さんと佐々木さん。

松山座敷蔵

大崎市松山千石字松山 250 (酒ミュージアムななめ向かい)
開館時間 / 9 時 30 分 ～ 17 時 (要予約)
入館料 / 大人 100 円 小中高生 50 円
予約・問合せ / 松山総合支所産業建設課
☎ 55-2114

チメートル以上のケヤキ梁、細やかな細工が施された欄間や引き出し階段など、意匠の凝った造りが見られ、当時の船大工や宮大工の技も随所に見られます。

応接間として使用されていたという二階には、「幕末三舟」の一人高橋泥舟書の襖と元登米郡西郡臣主の省内省吾の襖絵など、見事な装飾品が使用され、当時の豪商の栄華を垣間見ることが出来ます。

現在は主に地域のイベントなどにあわせて公開され、その際には自由に見学することが出来ますが、通常は予約が必要です。

そして、「座敷蔵」を始めとする、松山地域の歴史や文化を訪ねる際にお世話になりたいのが、ボランティアガイド「まつやま訪ね歩き」の会。松山が大好きな皆さんが、松山の歴史遺産を案内してくれます。

歴史の息吹を伝える「松山座敷蔵」。街並み散策とあわせて、訪ねて見ませんか。